

平成 25 年度「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における  
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究(高等学校)」  
委託業務報告書【推進校(学校)】

**1 学校の概要**

＜生徒数・学級数(平成 25 年 4 月現在)＞

学校名	富山県立高岡西高等学校(とやまけんりつたかおかにしこうとうがっこう)				
学 年	1 年	2 年	3 年	計	教員数
学級数	3 学級	3 学級	3 学級	9 学級	32 人
生徒数	121 人	118 人	118 人	357 人	
学校のホームページアドレス			http://www.tym.ed.jp/sc349/		

**2 推進校における学力に関する現状**

**(1) 基礎学力**

本校は、平成 9 年度に男女共学。平成 13 年度からは普通科単独募集となった。伝統的に、まじめで明るい生徒が多く、課題等の提出状況もよい。例年、本校生徒の国公立大学志望者は、各学年ともに 70～75% と高いが、実際の進学者は 25～35% 程度であり志望を満たしていない。

このため、昨年度のアクションプランでは、重点課題を「基礎学力の定着」、「自主的学習時間の確保」とし、1 週間当たりの自主的学習時間の目標、表 1 のように定めた。

評価を踏まえると、自主的学習時間の一層の充実と指導法を改善する必要がある。

【表 1】平成 24 年度(研究実施前年)アクションプランにおける達成目標

達成目標	1 週間あたりの自主的学習時間			自主学習の意識
	1 年生		2 年生	3 年生
	1 4 時間以上の生徒の割合		1 8 時間以上の生徒の割合	自主学習の継続率
	6 0 % 以上		5 0 % 以上	6 0 % 以上
達成度	・ 1 年生 1 学期 6 8 % 2 学期 6 2 % 3 学期 6 5 % ・ 2 年生 1 学期 3 6 % 2 学期 4 3 % 3 学期 5 0 % ・ 3 年生 1 学期 6 3 %			
評 価	1 年 B 2 年 C 3 年 B	1 年 考査期間を除けば、5 8 % と目標を下回っているため。 2 年 学期が進むにつれて学習時間は増加しているが、目標の 1 8 時間以上の達成は考査期間中にとどまっているため。 3 年 指導がきっかけとなって地道に取り組む生徒が出てきた。		

[評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった]

**(2) 確かな学力**

「確かな学力」を構成する基本的な能力として「習得」「活用」「探究」のそれぞれが必要である。しかし、本校生徒の場合、基礎・基本の習得に多大な時間が使われており、活用・探究が十分でないことから、定期考査では高得点の生徒も模試では得点できない、特に記述式問題に課題がある。このため、(1) 基礎学力に加え論理力の育成を中心にした「言語活動」を重視した「学習スタイルの定着」を図る教材開発が必要である。

**(3) 指導体制の課題**

著しい少子化により、かつての 1 学年あたり 8～11 学級が、平成 21 年以降全学年 3 学級の小規模校となり教科担当者数が少なく、個々の教員の力量が学力形成に大きな影響がある。加えて、人事異動による指導体制への影響が大きい。教材開発や生徒指導・分掌業務など教員間の指導ノウハウの円滑なバトンタッチを可能とする体制の確立が課題としてある。

### 3 研究課題

小規模校で持続可能な「確かな学力」の定着を図る指導法の開発

### 4 平成 25 年度の重点課題

- (1) 個々の生徒が確実に進路実現できる指導法の改善
- (2) 「確かな学力」の定着を図る言語活動を重視した指導の充実

### 5 研究の具体的内容

#### (1) 個々の生徒が確実に進路実現できる指導法の改善の取組

授業の充実の成果が、家庭学習習慣の確立につながるとの仮説をたて、今年度の目標を「年間累積時間 1, 000 時間」として取り組む。具体的には次のような目標を立てた。

平成 25 年度 高岡西高等学校アクションプラン			
重点項目	学習活動 (1)		
重点課題	家庭学習年間 1000 時間への学年別目標の確保		
現 状	本校生徒の国立大学への志願者は各学年ともに 70~75% と高く今年度は 3 人に 1 人を達成。進路希望を達成するためには、早期に明確な進路目標をもって学習に取り組み、自主的学習習慣の確立が必要である。しかし、各学年ともに自主的学習時間(家庭学習時間)が不足している。		
達成目標	年間家庭学習時間達成者		
	1 年生(700時間)	2 年生(800時間)	3 年生(1000時間)
	40%以上	50%以上	60%以上
方 策	1 個別面談をとおして進路目標を明確にさせ、学習意欲を喚起する。 2 午後 9 時~11 時を West Time (西高生家庭学習時間) と位置付け、学習に専念させる。 3 生徒が計画的な学習に取り組めるように、余裕をもって課題情報を提示する。 4 習熟度別学習の効果があがる指導法の実践研究 5 基礎学力を育む週末課題教材の作成		

#### (2) 「確かな学力」の定着を図る言語活動を重視した指導の充実の取組

基礎学力に加え論理力の育成を中心にした「言語活動」を重視した「学習スタイルの定着」を図る教材開発を計画した。

平成 25 年度 高岡西高等学校アクションプラン	
重点項目	学習活動 (2)
重点課題	「確かな学力」の定着をめざした、教養と論理的な思考力を育む指導の充実
現 状	定期考査は高得点だが、模試等では得点が低いなど、応用力が定着していない生徒が多い。
達成目標	・各学年の週末課題の提出率を 95% 以上
方 策	・生徒の学力の詳細な調査と生徒へのフィードバック ・小論文等(週末課題)の提示と添削指導の実施 ・互見授業・研究授業の実施と授業改善

具体的には、

- ア Intellectual Power Training(IPT)
  - イ 小論文指導等週末課題の実施
  - ウ 授業改善
- からなる。

#### ア Intellectual Power Training(IPT)の取組

##### ① Intellectual Power Training(IPT)とは

「確かな学力」を構成する基本的な能力としての「習得」「活用」「探究」を向上させるため、本校生徒に十分ではない「活用」「探究」に力点を置いた取り組み。知力トレーニング。

##### ② 知力トレーニング

- ・週 1 回(2013 年度は水曜日) 8:20~8:30 の朝の 10 分間で実施する文章読解訓練。
- ・IPT の内容は、新聞記事や社説、専門書等から抜粋した話題性のある時事問題など。
- ・課題作成者は、国語・数学・英語を除く全教員の持ち回り。(取りまとめは、学年・進路)

イ 小論文指導等週末課題の実施

- 【1年】 学期のはじめに計画を立て、さらにこまめに生徒に連絡することにより、生徒が課題に取り組めるようにしている。特に英語では、非常に苦手な生徒には、課題を一部変えている。
- 【2年】 課題の計画を学期はじめに提示し、余裕を持って取り組めるようにしている。また、教科担当だけでなく、学年全体で未提出生徒に対して、声かけを行っている。
- 【3年】 課題等の計画を学期はじめに提示し、生徒が余裕を持って課題学習に取り組めるようにしている。また、入試に対応できる力を身に付けさせるための課題を精選している。

ウ 授業改善

- ・わかりやすい授業の工夫、実践をするよう各教員に呼びかけた。
- ・5月15日(水)～6月5日(水)を「互見授業期間」とし、「互見授業」を実施した。他の教員の授業の良いところを取り入れていくことで、各教員の授業力向上を図った。

(3) 実施スケジュール

- 4月 計画書提出(学校→県教委→国)、課題の整理(骨格策定)
- 6月 地域指定決定(国→県教委→学校)
- 10～12月 先進地域(学校)視察・公開研究会等参加
- 1月 第2回学力向上推進協議会(高岡西高校会場)公開授業
- 2月 研究の取りまとめ
- 3月 報告書提出、ホームページに公開

6 研究の成果

(1) 個々の生徒が確実に進路実現できる指導法の改善について

ア 家庭学習習慣の確立…毎日家庭で午後9時から11時までは、テレビ、携帯などを禁止し、学習に打ち込む時間とするという「West time」の指導を徹底し、学習習慣の定着を図ることができた。

1 学期 家庭学習時間調査

年間目標時間	700時間	800時間	1,000時間
1学期末の目標	200時間	230時間	280時間
達成割合	(40%以上)	(50%以上)	(60%以上)
家庭学習時間(累積)	1年	2年	3年
450～	500	1	3
400～	450	2	10
350～	400	1	16
300～	350	10	26
250～	300	31	27
200～	250	42	21
150～	200	19	7
100～	150	11	6
50～	100	3	1
0～	50	1	2
人数	120	117	114
累積の平均時間	230.6	232.9	292.6
1日あたりの学習時間	2.2	2.2	2.8
調査日数(1学期週数)	105日(15週)		

2 学期 家庭学習時間調査

年間目標時間	700時間	800時間	1,000時間
2学期末の目標	500時間	570時間	710時間
達成割合	(40%以上)	(50%以上)	(60%以上)
家庭学習時間(累積)	1年	2年	3年
1200～			7
1100～	1200	1	11
1000～	1100		13
900～	1000		16
800～	900	6	25
700～	800	14	18
600～	700	34	9
500～	600	32	4
400～	500	13	6
300～	400	12	4
200～	300	5	2
	不明	1	10
人数	118	117	118
累積の平均時間	583	624	828
1日あたりの学習時間	2.3	2.4	3.2
調査日数(1・2学期週数)	259日(37週)		

達成見通し 1 学期末

Check	学年	現在の時間	(最終)	達成者割合
◎	1	200時間	(700時間)	72%
○	2	230時間	(800時間)	52%
△	3	280時間	(1,000時間)	57%

→ 2 学期末・・・ほぼ達成

Check	学年	現在の時間	(最終)	達成者割合
◎	1	500時間	(700時間)	74%
◎	2	570時間	(800時間)	64%
◎	3	710時間	(1,000時間)	76%

- イ 習熟度別学習…1年から3年の数学・英語の授業を中心に、生徒の実態に応じて習熟度別学習を行うとともに、教材開発を行った。実施は下記科目・学年
- 数学Ⅰ（第1学年全クラス）、数学Ⅱ（第1学年全クラス）
  - 数学Ⅱ（第2学年理系）、数学Ⅱ（第2学年文系）、数学Ⅲ（第2学年理系）
  - 数学Ⅲ（第3学年理系）、数学探究A（第3学年文系・人間福祉コース）
  - 英語Ⅰ(G)（第1学年全クラス）
  - 英語Ⅱ（第2学年全クラス）
  - 英語Ⅱ（第3学年全クラス）

<工夫>個々の生徒の学習の到達度を掌握し、クラス替えを学期や考査ごとに行う。授業は少人数で行うので、生徒の実態に応じた発問、グループ学習、発表などを取り入れた授業を行っている。そのため、クラスの数に偏りを持たせる場合もある。課題は、生徒の実態に応じて提示している。

ウ 週末課題の活用課題提出指導を徹底し、基礎学力の定着の手がかりとなった。一方、友人のノートを写すだけといった作業としている生徒もいることから、個々にも対応できる週末課題教材の工夫と効果的な指導法の研究を行った。

## (2) 「確かな学力」の定着を図る言語活動を重視した指導の充実の取組

### ア Intellectual Power Training(IPT)の取組

月 日	IPTテーマ
4/17(水)	—食物アレルギーって何?—
4/24(水)	電力改革/もう骨抜きは許されない
5/1(水)	生涯スポーツの実現に向けて~富山県の取り組み~
5/8(水)	憲法は普通の法律とどこが違うの?
5/22(水)	「看護の日」ナイチンゲールの思いは受け継がれているか? 慢性化する長時間労働に疲弊する現場
5/29(水)	LINEのオキテ
6/5(水)	サービス残業ばかり 誤解~ユニクロ柳井会長に聞く~
6/19(水)	「子どもとメディア」調査
7/3(水)	富士山も直面する世界遺産のジレンマとは
7/10(水)	解剖実習 パソコン画面で
9/4(水)	富山の市電100年 まちづくりの切り札だ
9/11(水)	2020年「東京五輪」に決定
9/18(水)	ハンセン病への差別
9/25(水)	医療・介護費 5兆円を「画餅」にするな!
10/2(水)	ネットの公共教育を スイカ履歴が突き付ける課題
10/9(水)	在日特権を許さない市民の会
10/23(水)	本離れ懸念
11/13(水)	若田ISS船長 宇宙での夢を広げる機会に
11/20(水)	一緒に遊んでいても孤独
11/27(水)	「セブンイレブン」40周年 出店攻勢、飽和論に挑む 高齢者、共働き需要対応 ネットとの融合課題
12/11(水)	2014年ブラジルW杯の組み合わせ決定
12/18(水)	マンデラ氏死去 恩讐を超えた精神に学べ

## イ 小論文指導の取組

- ・概要：IPTに加え、国語表現等の時間で小論文指導を行い。期末考査で評価問題を出題
- ・計画：1学期 IPT を実施  
8月に「小論文ガイダンス」を実施  
2・3学期小論文指導 学期末に評価

## ウ 授業改善の取組

### ① 研修の充実

本校では、授業のねらいを明確に、各教科だけでなく、学年・学校全体で取り組んでいる。小規模校であり、本校ならではの「みんなで取り組む」意欲が高い。また、若い教員が多く教材開発にも積極的であり、機会を設定することで、自ら志願して他校の授業見学にも参加し、よいところはどんどん取り込んでいる。

### ② 家庭学習と授業の一体化

「家庭学習と週末課題といった学校以外の学習」について、そもそも家庭学習を学校内の教育活動と切り分けて考える発想では、確かな学力は定着しない。授業だけを改善すれば良いという学力観では、十分な学力定着は図れないことから、的確な週末課題を提示することとした。

### ③ 論理的思考力の醸成

本校が求める「確かな学力」は、社会人として必要な、論理的思考力である。具体的には、論理力の基礎と成る教養の涵養と活用法が求められる。現実には、中学校時代の学習法から脱却せず、家庭学習をおろそかにし、塾・予備校に頼る生徒が多い中、授業の復習を大切にし、基礎・基本の定着を図るための適切な週末課題の設定が必須である。

また、なぜ間違ったかを論理的に解明するため、考査問題を分析する「間違いノート」を作成し、個別指導する取組（1学年数学科）を実施した。

## 7 今後の課題

### （1）家庭学習年間1000時間への学年別目標の確保

【1年】生徒により、学習時間が少なかったり（1割程度）、非常に多かったりするなどの二極化が見られる。学習時間が少ない生徒の指導はもちろん、多い生徒に別課題を与えるなどして、成績向上に結びつかせる工夫も必要である。

【2年】学習時間は多いが、成績に結びつかず伸び悩んでいる生徒が見られる。家庭学習の質を高めさせるために、面接等を行うことで、より効果的な学習の仕方を工夫させる必要がある。

【3年】学習時間を確保させるために低学年の段階から計画的に課題を提示し提出させてきたが、学習の質がともなわないケースも少なくなかった。質を高めるための方策を考える必要がある。

### （2）「確かな学力」の定着をめざした、教養と論理的な思考力を育む指導の充実

【1年】課題を提出しない生徒が固定している。提出するよう声かけを行う。また、課題の量が適切かどうか、再検討する。

【2年】依然として提出することが目的となっている生徒が見られる。生徒が自ら、必要性を認識した上で課題に積極的に取り組もうとする仕掛けが必要である。

【3年】期限に課題を提出するようにさせることはもちろんだが、中身の充実をはかるための工夫がまだまだ必要である。

### （3）基礎学力の定着

- ・「互見授業」等を活用して、よりわかりやすい授業の工夫をする。
- ・週末課題を提出しない生徒に対する指導について各教科・各学年で検討し、対策を練る。

- ・朝学習、小テストのあり方や実施内容について検討する。
- ・考査問題の当否（問題内容や問題レベルなど）について、各教科で検討する。

## 8 その他

授業改善や課題等の提示の工夫として、下記のことも実施した。

- ・授業時間 50 分間をしっかりと確保するために「授業開始のチャイム」と同時に授業を開始し、「終了のチャイム」で授業を終えるよう各教員に呼びかけた。
- ・教員の出張・休暇等の際には、授業を自習にしないようにした。  
（できるだけ時間割変更または代理授業を行った。）
- ・基礎学力を定着させるために、各学年において英語・数学・国語を中心に週末課題を提出させ、教科担当者がそれを点検した。未提出者には提出するまで根気強く指導した。
- ・既習事項の確認及び定着を図るために、各学年において、英語・数学・国語を中心に、朝学習(15分間)、放課後小テスト(15分間)を実施した。第3学年では、放課後平日補習(50～60分間)を実施した。